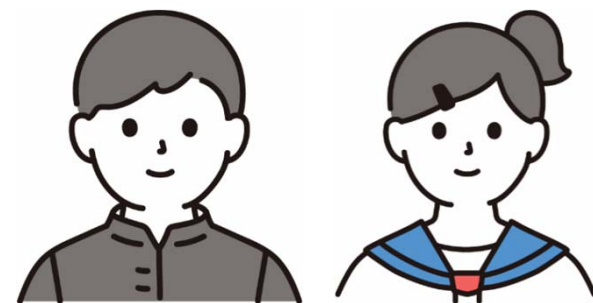




令和6年度

イノベーションmiyaユース会議



令和6年度
イノベーションmiyaユース会議

成果発表

【Aグループ】



Aグループがまとめた理想のうつのみや

- 子供が安心して登下校できるまち
- すべての子どもが自分らしくいられる支援を受けられるまち
- 兄弟姉妹が同じ保育園に通えるまち
- 学生と社会人の繋がりが広がっていくまち

わたしの思う理想の宇都宮は

子供が安心して登下校できるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

下校時刻が遅くなってもう暗くなっている中で帰ることが怖いなと思った経験と、空き家に不審者が隠れたりしているという話を聞いて自宅の周りに空き家が多いことが気になったためです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

公共交通機関の充実と空き家の活用が重要だと考えました。環境が改善されることを待つだけでなく、私たちも自己防衛をすることが必要だと感じました。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

バスやLRTなどの公共交通機関を行き届いていないところに拡充したり、空き家問題については空き家の活用方法として学習室などの新たな可能性を見つけることができたらいいなと考えました。みんなが自分で行いたくなる自己防衛策を募集して広めることができれば、自分で考え行動できる宮っこのすごさを誇れると思います！

わたしの思う理想の宇都宮は

すべての子どもが

自分らしくいられる支援を受けられるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

不登校の子どもやギフテッドの子どもなど、全ての子どもたちが成長段階に合わせて様々な選択がとれるまちではないと思ったから。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

- ・担任や学年の先生の数を増やし、生徒が相談しやすい大人に相談できる環境を整える
- ・市民センターなど、身近な場所で学校に行けない理由に合わせた交流を定期的に行い、コミュニケーションをとる場を設ける
- ・オンラインや学習室での勉強や交流を活発にする
- ・学校で授業前や放課後に自習ができる環境や先生を確保できるようにする

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

- ・支援を受けられていない現状を知る
- ・自分の意見を発信したり、同じような考えをもった人との交流の機会を見つけて積極的に参加したりする

わたしの思う理想の宇都宮は

兄弟姉妹が同じ保育園に
通えるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

宇都宮市は比較的共働き世帯にとって子育てしやすいが、近所に住む3人の保育園児をもつご家族の「同じ保育園に通わせられない」という状況を聞き改善する必要があると考えたから。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

国による制度の改変により同じ保育園に通えるようにする
企業側や社会による環境，制度作り(会社に隣接した託児所など)

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

今回のような会議に参加し自分の意見を述べる
周囲に目を配り，声を聞いて情報収集・意見共有をすること
託児所，地域のコミュニティーを作成し高齢者と子供の交流の場を設ける(この際に空き家を活用したい)

わたしの思う理想の宇都宮は

学生と社会人の繋がりが広がっていくまち

① この理想のまちを考えた理由は、

現状学生が出会える社会人が教員や保護者しかいなく、将来の選択肢が少ないが、幅広い職業の社会人と触れ合うことで、より納得感を持って進路や職業を選択できると考えたから。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

様々な職種の社会人と学生が触れ合うことができる機会や、様々な職種の体験をする機会を増やすことが必要だと考える。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

オンラインで学生が社会人の話を聞く機会をつくることや、授業で講義してもらえるように自分の知り合い同士を繋げていく。

令和6年度
イノベーションmiyaユース会議

成果発表

【Bグループ】

Bグループがまとめた理想のうつのみや

- 子どもたちがいきいきと過ごせるまち
- 誰もが安全安心に暮らせるまち
- 事故なく安心してずっと暮らせるまち
- 自転車に優しいまち
- グローバルな最先端技術産業のあるまち

わたしの思う理想の宇都宮は

子どもたちがいきいきと
過ごせるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

最近はゲームなど限られたものや場所で遊ぶことが多くなっていて、
屋外で遊んだり体験したりする機会が少ないからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

幅広い世代の子供たちの交流を目的とした、
地域ならではのものづくり体験や、気軽に遊べる公園の整備・設置を行うことです。
これらの活動によって、まちのこどもたちのつながりが深まり子供たちの個性や興味を伸ばせるまちになると思います。
また、そもそもイベントがあることを知らない人もいるのでより多くの人に知らせるため、
チラシやSNS、情報掲示板を利用して参加人数を増やすことも大事だと思いました。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

自分自身がイベントに積極的に参加すること、また周囲の人々にイベントがあることを知らせることを
心掛けていきたいです。

わたしの思う理想の宇都宮は

誰もが安全安心に
暮らせるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

LRTの使い方や自転車の乗り方、パソコンの利用方法等で危ない使い方や誤った方法で使用している人、ルールを知らない人が多く、正しい使い方を色々な人に知ってもらい安全に暮らせるまちになってほしいと思ったからです。

② 理想のまちにしていこうために必要だと思うことは、

LRTルール教室の頻度を増やしたり、授業や免許更新時にも取り入れたり、自転車のルールを明確にし、発信することです。そのことによって、ルールを知り、より安全になると思ったからです。また、授業中は先生が生徒のパソコンの画面を見れるようにすることで、危ないサイトに入ったり、ゲームなどをしたりすることが減り、安全にパソコンが利用できると思いました。

③ 理想のまちにしていこうために、わたしは、

正しい知識をみにつけて、学校の授業などの場を通して正しい知識を伝え、誰もが安全安心に暮らせるまちにしたいです。

わたしの思う理想の宇都宮は

事故なく安心して
ずっと暮らせるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

ニュースで登校中の学生の事故や、高齢者の事故などの話題を見て少しでも事故を減らしてほしいと思ったからです。

② 理想のまちにしていくなために必要だと思うことは、

学校などで行われている交通安全教室などを自治会や子供会でも行うことです。
SNSで行政から市民に対してしっかり情報を提供することです。
(交通ルール, LRTのルールなど)

③ 理想のまちにしていくなために、わたしは、

友達などと意見交換などして、危険な場所を知ります。
そして車通りの激しいところや、暗い路地裏などの危険な場所には行きません。
友達が危険な運転や行為をしていたら注意をしてあげます。

わたしの思う理想の宇都宮は

自転車に優しいまち

① この理想のまちを考えた理由は、

自転車で通学してるときに朝だったからなのかもしれないけれど、車がかなりスピードを出していたのが危険だと思ったのと、夜に塾から帰るときに信号無視をする車が多かったからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

通学路に自転車専用道路を設置することです。

**また歩行者が多くいる横断歩道では、補導する人などがいることが必要だと思います。
そして自転車販売店では、購入時に軽い自転車のマナー教室を開くのが必要だと思います。**

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

自転車に乗る際に歩行者に道を譲る等の運転マナーに気をつけます。

わたしの思う理想の宇都宮は

グローバルな
最先端技術産業のあるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

宇都宮には固有の先端技術産業がないと思ったからです。
日本はITの波に乗り遅れてしまったのではないかと思います。
日本は自動車産業(本田,トヨタなど)が発展しましたが、アメリカのスマートフォンやソフトウェア(Microsoft, Appleなど)の分野では負けてしまいました。
熊本県は半導体に力を入れることで、日本で最も半導体に強い県になりました。
このような事例から宇都宮も何かの産業を取り入れることがよいと考えました。
次の時代には量子コンピューターが最も盛んな産業になると思いました。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

量子コンピューターを早く宇都宮の産業にするための英語教育を活発にすることです。
具体的には脳が柔軟な幼少期の時から英語を取り入れた方がよいと思いました。
さらに、高専という(早いうちから高度な座学と実践的な技術を学べる場所)を増やすとよいと思いました。
そのような取り組みを行い、アメリカからいち早く量子コンピューターを取り入れて、日本独自の技術力を使い、
宇都宮としてだけでなく、日本の産業として代表するべきだと思います。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

英語の勉強を頑張りたいです。
そして、高専に入って次の量子コンピューター開発関係について携われるような人になりたいです。
それから、量子コンピューターの知識を持って事業を起こし、
また輝かしい日本を取り戻したいと思いました。

令和6年度
イノベーションmiyaユース会議

成果発表

【Cグループ】



Cグループがまとめた理想のうつのみや

- 多様性を認め、差別をしないまち
- 小学生が気軽に勉強をしに行けるまち
- 子どもが天候に左右されずに遊べるまち
- 公園やお店などに、子供だけで安心して行けるようなまち
- 地域の人の子育てを支援するまち

わたしの思う理想の宇都宮は
多様性を認め、差別をしないまち



① この理想のまちを考えた理由は、

日本は外国と比べて差別が多いというデータがあり、差別の教育も外国のほうが高いからです。

② 理想のまちにしていくなために必要だと思うことは、

もっと子供の尊重や意見を聞いてもらうために選挙の投票をもっと低い年齢にする。そのために、小学生くらいから政治のことについて学んで選挙の大切さを知ることが必要だと思います。

③ 理想のまちにしていくなために、わたしは、

差別をされて苦しんでいる人がいたら大人の人に言ったりして助ける。また大人の人に助けを呼んだり、自分が差別をされたときは言い返す。(自分を守る)

わたしの思う理想の宇都宮は

小学生が気軽に勉強や自習をしに行けるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

家以外で自習などができるのは図書館などがあるが、
自分より上の年の人が多くて行きにくいからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

小・中学生だけが使える自習スペース(うるさすぎず, 静かすぎず)
を作ってみんなで勉強し合えるようにすることだと思います。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

図書館などの落ち着ける場所に友達を連れて行って
気軽に勉強をするということをしたいです。

わたしの思う理想の宇都宮は

子どもが天候に左右
されずに遊べるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

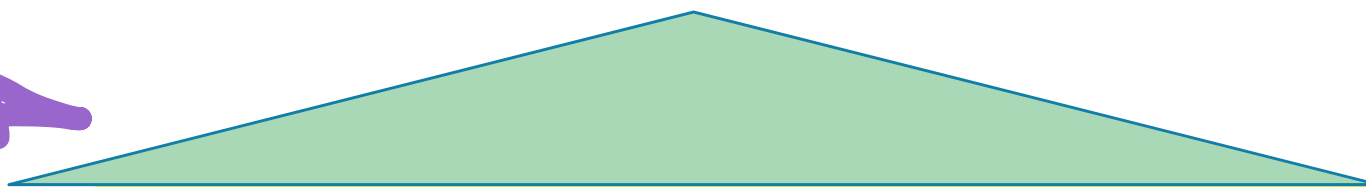
暑い日や雨の日にも外で遊びたいのに遊ぶことができないから。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

公園に屋根を付けたリ水やスポーツリンクを公園に置いておく。公園の近くに室内で遊べる場所を作る。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

この会議で提案したことをクラスの友達や知り合いに伝える。



わたしの思う理想の宇都宮は

公園やお店などに，子供だけで
安心して行けるようなまち



① この理想のまちを考えた理由は、

子供たちが、事故・事件などでけがをしたり、傷をつけられたりするのが嫌だから。

② 理想のまちにしていくなために必要だと思うことは、

駅の周りや、公園などをパトロールして欲しい。

③ 理想のまちにしていくなために、わたしは、

自分の地域の危なそうな所を、自分たちの視点で確認する。

わたしの思う理想の宇都宮は

地域の人が子育て
を支援するまち

① この理想のまちを考えた理由は、

子どもを育てる過程で小学校という大きな壁があることをテレビで見た。子供が保育園や幼稚園から小学校入学するタイミングで登校時間と親の出勤の時間の差が生じてしまうことが現状として取り上げられていた。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

地域のおじいさん、おばあさんに協力を得て、朝の七時から小学校の体育館などを借りて、朝の学童のようなシステムを実施すること。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

親が出勤する間に小学一年生がひとりにならないように小学六年生が登校時間まで一緒にいてあげたりすること。また、身近な問題を世の中に伝えていくこと。

令和6年度
イノベーションmiyaユース会議

成果発表

【Dグループ】



Dグループがまとめた理想のうつのみや

- 事故・事件が少なく，だれもが安心して暮らせるまち
- 子どもが自由にのびのびと学習できるまち
- 子どもたちも子どもの権利について考えるまち
- みんなが結婚して子どもを産んで家庭をもちたいと思えるまち
- 子どもが思いっきり遊べるまち

わたしの思う理想の宇都宮は

事故・事件が少なく,
だれもが安心して暮らせるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

ネットやテレビで事故や事件のニュースを聞くと悲しい気持ちになるからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

子どものとびだしを防いで、安全な街にするために、道路などにセンサーを取り付けて、人が車道に入ると警報が鳴るようにするなど子どもを守る取り組みです。また、子どもも大人も一人一人が事故にあわないように注意を呼び掛けることです。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

安全のための呼びかけ運動に参加したり、一人一人に注意を呼び掛ける安全ポスター作りなどをしたりします。

わたしの思う理想の宇都宮は、

子どもが自由にのびのびと
学習できるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

学校以外で「勉強を教えあったり、自由に学ぶことができる空間」が少ないと思ったからです。また、「勉強したいな」というときに気軽に行ける場所がないからです。

② 理想のまちにしていこうために必要だと思うことは、

子ども同士で勉強できる場所を作ることです。縦の関係も良くしていくために、小学生だけでなく中学生、高校生、大学生、おじいさん、おばあさん、も来れる場所を作ってほしいです。勉強を教えてもらったり、昔の遊びなどを教えてもらったりしたいです。小学生には、お菓子をあげて、中学生や高校生には、図書カードをあげるなど工夫をしたらいいと思います。

③ 理想のまちにしていこうために、わたしは、

これから、年齢、人種、性別に関わらずどんな人ともたくさんお話していきたいです。

わたしの思う理想の宇都宮は

子どもたちも

子どもの権利について考えるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

miyaユース会議のような内容を学校の授業の時間で設けられていないので子どもの権利について興味を持つ人が少ないと思ったからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

自分たちのような子どもの意見を学校や地域で話し合い、市などに反映させる機会を増やすことがいいと思います。

また、市でmiyaユース会議のような話し合いができる取り組みを増やしていくことも必要だと思います。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

自分が思っていることを市や学校にはっきりと伝えていきたいと思っています。

わたしの思う理想の宇都宮は

みんなが結婚して子どもを産んで
家庭をもちたいと思えるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

子どもがいる家庭が子育てをみんな笑顔でできるようになり、みんなが結婚して、子どもを産んで家庭を持ちたいと思える街になって欲しいからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

親が働きすぎで子どもと向き合う時間がないので、イベントなどで親子が向き合う時間を作り、いろいろなことを体験したり話し合ったりすることです。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

同じ子育てをする親子同士で、たくさん話をして気軽につきあえる状態をつくります。また、自分の家族で楽しく暮らせるように家族の気持ちを考えて生活します。

わたしの思う理想の宇都宮は

子どもが思いっきり遊べるまち

① この理想のまちを考えた理由は、

ほとんどの公園では、ルールのため、公園で、球技ができなかったり、クラブや部活動に入らないと、球技ができないからです。

② 理想のまちにしていくために必要だと思うことは、

運動専用公園を作り、公園で散歩などをしている人に迷惑をかけないように、運動だけができる公園が必要だと思います。

また、競技ごとに野球場、サッカー場などを作り、子どもでも気軽に使える施設が必要です。

③ 理想のまちにしていくために、わたしは、

miyaユース会議のような機会での自分の意見を市に伝えたり、学校で、球技ができる公園が必要だということをクラスなどで話し合っていきたいです。